

イワオモダカ *Pyrrhosia hastata* (Thunb.) Ching

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。東アジアの固有種で、園芸目的の採取と開発により激減している。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く横走り、接近して葉をつける。葉柄は長さ 12～25cm である。葉身は 3 裂し、側裂片は通常更に 2 裂して全体として細長い掌状になり、長さ 5～15cm、幅 3.5～12cm。中央の裂片は三角状披針形～披針形で、基部が中央が最も幅広く、先端に向けて狭くなる。葉裏は褐色の星状毛で密に覆われる。胞子のう群は主側脈の間に 3～7 列に並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 61305）、鳳来北東部（小林 58169）、稲武（塚本威彦 2691）、小原（日比野修 3273）、犬山（芹沢 38809）、新城（桜淵、加藤等次 s.n., 1966-1-6）、旭（伊熊、大原準之助 s.n., 1964-8-26）で採集された標本もある。

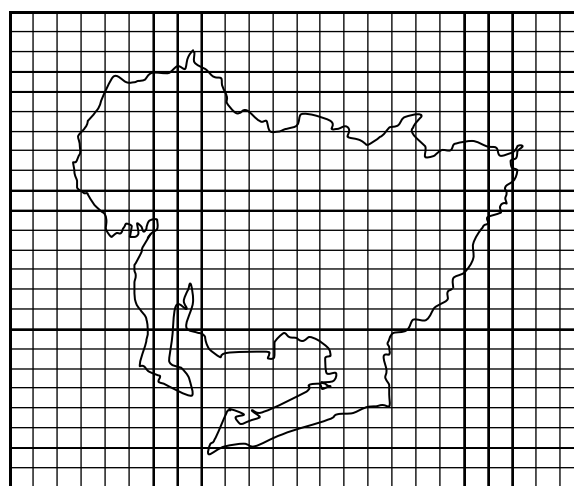
【国内の分布】

北海道から九州まで広く分布する。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

岩崖地に着生したり、森林の樹幹に着生したりする。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

古くから園芸栽培の対象となっている植物で、愛知県ではもともとあまり多くない上に、採取により減少している。森林の伐採により消失した事例もある。犬山ではかなり個体数が多かったが、多量に持ち去られた上、開発により地形が改変され、現在ではほとんど残っていない。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、常時監視できない場所については、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ヒトツバ属の中で葉が掌状に切れ込む種は、本種と台湾のモミジヒトツバだけである。本種とヒロードシダとの自然雑種であるヤツシロヒトツバ *P. × nipponica* Beppu et Seriz. は、愛知県鳳来町で初めて発見され、中国大陸のイワダレヒトツバにあてられたことがある。この雑種は今のところ愛知県内で現存を確認できず、県内では絶滅したものと思われる。

【関連文献】

保シダ p.161、平シダ p.263。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 624-629. 東京大学出版会, 東京.